

「がんばらないために工夫してきた人」が、いつだって時代を作ってきた①

長野県で「パンと日用品の店 わざわざ」を経営している平田はる香さんに、「がんばりたくない人間の、がんばりかた」について執筆いただきました。

2009年に長野県東御市に「パンと日用品の店 わざわざ」を開業し、2種類の食事パンと、2000種類を超える日用品を取り扱う店を運営しています。2017年に法人化して現在は20名ほどが働く会社となり、昨年度の年商は2億6000万ほど。文字通りがんばり続けてきましたが、正直がんばるのめんどくさいなって最近は思っています。

昔から、がんばりたくない人間だった

思えばわたしは、昔から「がんばりたくない」という気持ちの塊のような人間でした。競争が嫌だから、誰も店を出していないような山の上に店を出す。20種類種類のパンを焼いていた時代もありましたが、正直作るのがものすごくめんどくさくて、どうにか楽をしたくて考えたのが、「パンの総量を増やしなから種類を極端に減らす＝食事パン2種類だけを売る」という方法でした。

パン作りでわずかなミスをするとパンが全滅して、何度も悔しい思いをしました。その悔しくて辛いのが嫌で嫌で、ミスの原因のデータを取って徹底的に追究し、二度と繰り返さないように製造環境を整えていきました。

他にも、早起きが辛いので、24時間で冷蔵発酵させるパン作りを考えて、朝5時に起きて毎日24時間サイクルでパンを焼ける製造方法を作ったりもしました。

「そんな方法でパンが焼けるのですか？」と驚かれることも多く、セオリーにない製造法を信じてもらえないことも多かったのですが、これらはすべて、わたしががんばりたくない性格からきていることでした。

人間が、一番めんどくさかった

そのうち、一人でパンを焼いて店をやってオンラインストアで発送するのが、大変で大変でめんどくさくなったので、人を雇って手伝ってもらうことにしました。ですが、人間が一番めんどくさかったです。

パンは、泣きも怒りもしませんが（ただ生地がだれるだけ）、人間は一人として同じ人がいません。給料が少ないとか休みが少ないとか、不満や感情のパターンも人の数だけあって、本当にめんどくさいとしか言いようがありません。

全部効率化して、仕事が楽しくて給料がわりかしよくて、休みが多い会社にすれば文句もでないだろうと考えて、どうにか会社をおもしろくしようとしています。それでもどこからか不満が漏れ聞こえてきます。

ああ、本当にめんどくさい。どれもこれも全員が満足することはなくそれ以上を望むのですから、これが人間というものなのでしょう。なのに会社というものを経営してしまうのは、人が集まれば一人ではできないことをできるようにしてしまうことに、期待しているからに違いありません。

人間が人間を正当に評価できるわけがないという考え方を軸に、まあ評価するのがめんどくさかっただけなんです。評価を一切しないと2017年に断言して社内ベーシックインカムだと給料を一律にしたら、そのうち辞めたいと言う人が出始めました。それで「自己評価制度」なるものを作り、自分を自分で評価して、自分で給料を決められる制度を作って、とりあえず今のところ平和になりそうな予感がしてきましたが、どうせほかの問題がすぐ出ると思っています。ええ、全部想定内です。

わざわざは「いかに楽に楽しく仕事ができるか？」を問いつけた実験の軌跡

わざわざの11年間は、わたしがわたしのために、いかに楽に、楽しく仕事をできるか？と問いつけた実験の軌跡です。

東北から元気発進！！ワクワク"夢実現"プロジェクト



仕事と生活調和推進企業として
ワーク・ライフ・バランスの実現を応援します

仕事とは苦しく辛いものであり、生活のために仕方なくやるものであるとなれば、わたしという人間はそれをやることはできません。そして、怠惰で楽をすることしか考えていないわたしができる仕事ならば、おそらく誰でもできるだろうと思っていましたが、どうやらそうでもないことがようやくわかってきたところです。

不思議なもので、世の中には、辛く厳しい仕事を望む人もいます。自由に考えて自由にやっていいですよというのが、辛くて辛くてたまらない人もいます。ルールがたくさんあってがんじがらめを好む人もいますし、外枠のルールがありつつも狭い範囲での自由を好む人もいます。

仕事というものは、人生においてお金をもらえるただのツールだと考えている人もいて、出勤することだけが仕事だと思っている人さえいます。これは最初からすべて見えるものではありません。みんながみんな、人間の形をしていて、まったくそんなことをうかがい知る由がないのです。

「めんどくさい」の欲求に答えるビジネスが勝者

ただ1つ、想像できることがあります。

時間をお金に変えているような仕事は、いずれ、テクノロジーによって代用されてしまうだろうということです。

多くの仕事は、これまでも淘汰されてきました。蛇口をひねれば水が出るという当たり前の生活からは考えにくいかもしれませんが、かつては水を汲むという仕事があったのです。みなさんも多からず少なからず生きてきた軌跡を振り返ると、テクノロジーの進化による代替があったと気がつくはず。そう、すべての人間は、めんどくさいのが嫌なんです。

商店街がなくなり郊外のスーパーに人が集まるようになったのは、移動手段が電車から車に変化していったからです。小さな書店が町中から消え始めたのは、Amazonという巨大な書店がインターネットに登場した頃からでしょう。コンビニエンスストアの登場で町中の商店が消え、そのコンビニにあらゆる機能がついたことから喫茶店が消え、銀行や郵便局へ行く人が減りました。そして、そのコンビニさえもインターネットでの買物の増加や人口減少により淘汰され始めています。さまざまないいわけをつけて、電子マネーなどの決済手段の選択肢を増やさない店も、いずれ消費者にそっぽを向かれていくでしょう。

人間の「めんどくさい」の欲求に答えるビジネスが、いつだって勝者なのです。… 続きは次月号で。

平田 はる香：株式会社わざわざ代表 サイボウズ式新しい価値を生み出すチームのメディアよ

LET'S 農業③ 茄子、収穫！

梅雨があけてからは、毎日ピーカン日和。工場がある伊達市梁川町は、あの日本一暑い町「埼玉県熊谷市」と1位を争うくらい暑い日もある位気温が高くなる土地柄です。今はまだ畑に水道が無く自然の恵み“雨”に頼るしかない状況。しかし雨は全く降る様子が無い…。苗たちが干からびてきそうなので、水を入れるタンクと電動ポンプを準備し、近々散水する予定です。こんな劣悪な環境でも、茄子が実り収穫できました。皆で少しずつ分けていただきましたが、やっぱり採り立ては新鮮でみずみずしくて美味しい！今畑では、オクラやブロッコリーが育ち始めています。工場内には京菜の苗が畑に行く準備中です。これからは白菜の時期、野菜たちが伸び伸びと成長できる環境づくりをしていきます。



← 茄子入りのパスタと浅漬けになりました。



東北から元気発進！！ワクワク“夢実現”プロジェクト



仕事と生活調和推進企業として
ワーク・ライフ・バランスの実現を応援します